

赤れんが通信



北海道庁の金昭賢(キム・ソヒョン)国際交流員が、韓国の友好地域との交流事業及び北海道の情報などについて書いたレポートをご紹介します。

マスク着用の自由化とともに花見の宴会が4年ぶりに解禁されるようになるなど、日本でも人々の日常がコロナ前に回復しています。春もこのような生活を待ち望んでいたらしく、いつもより足早に訪れました。北海道は2月28日に2月の観測史上最も高い二桁の気温を記録し、3月中旬頃からは季節を先取りした暖かさが続きました。北海道の昼の時間は春分の日から日本一長くなると言われますが、ぼかぼかな日差しのおかげで、そのことを実感できるようになりました。

釜山・済州DAY実施



北海道は釜山広域市及び済州特別自治道とそれぞれ2005年12月、2016年1月に友好交流協定を締結しました。それを記念して1月25日から2日間、北海道庁1階で「釜山・済州DAY」イベントを開催しました。

今回のイベントでは、各地域を紹介するパネル展をはじめ、観光パンフレットやガイドブックなどの配布を行いました。1月26日の昼にはキム・ソヒョン国際交流員が両地域の概要や名所、郷土料理を紹介するセミナーを実施し、友好地域の魅力を発信しました。

韓国DAY @札幌ドーム



北海道札幌市に本拠地を置くJリーグサッカーチーム「コンサドーレ札幌」では、現在2人の韓国人選手(FW13 キム・ゴンヒ / GK25 ク・ソンユン)が活躍しています。

2月25日、ヴィッセル神戸とのホーム開幕戦が行われた札幌ドームでは、北海道と友好提携を締結している韓国の4地域(釜山広域市、慶尚南道、ソウル特別市、済州特別自治道)を紹介するパネル展を実施しました。

イベントブースでは韓国人選手のビデオメッセージも上映、スタジアムを訪れたファンを喜ばせました。

高校訪問講演



3月7日、北海道庁国際課のキム・ソヒョン国際交流員(韓国)とアルミ国際交流員(フィンランド)が札幌東商業高等学校を訪問し、国際経済科1年生の生徒さんたちに出身国の概要や文化、教育課程及び大学入試制度などを紹介しました。

全体講演の後に各教室で行われた質疑応答時間に、生徒たちは「ソウルで生タコの踊り食いが食べられる場所」や「辛い韓国料理」、「現在人気のアイドルグループ」などを質問し、韓国に行ってみたいと感想を話してくれました。

プチ・コリアDAY



3月25日、HIECC主催の「プチ・コリアDAY」イベントが行われました。韓国に関心のある道民や関係者らが出席した中、昨年11月にオンラインで開催された2022年済州国際青少年フォーラムに参加した北海道の高校生たちが討論や文化交流を通じて学んだことなどを発表しました。

当日には、キム・ソヒョン国際交流員による韓国友好交流地域紹介セミナーや駐札幌大韓民国総領事館による韓国クイズコーナーも設けられ、参加者らは韓国に関する理解を深めることができました。

上川総合振興局の防災訓練参加



北海道上川総合振興局で実施された防災訓練にキム及びアルミ国際交流員が参加しました。今回の訓練は、日本語が全く分からない外国人が大地震で困っている状況の中、自治体の防災担当者に相談を要請する場合に備えるためのもので、音声翻訳機やスマートフォンの翻訳アプリを活用する外国語での模擬相談が重点的に行われました。言語の壁を越えて、災害状況で直面し得るトラブルを解決できるように親切に相談に応じてくださることが印象的でしたし、私も日本で防災士の資格を取るときに学習した内容をこの機会に振り返ることができて有意義な時間でした。

北海道で楽しむウィンタースポーツ

北海道では奇想天外なウィンタースポーツを楽しむことができます。2月になると、参加者たちが家庭で作ってきた米そりで斜面を滑り降りてスピードを競う「北海道米そり選手権」が開催されたり、「昭和新山国際雪合戦」をはじめとする雪合戦大会が開催されたりします。私も去年に続き、様々なウィンタースポーツを満喫しました。

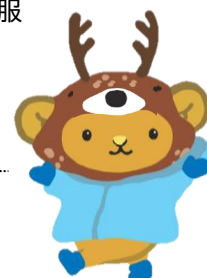
札幌市美香保(みかほ)体育館は、冬季にスケートリンクをカーリング場として開放することがあります。一日のスケートリンクの利用が終わった後、アイスメイキング作業でカーリングシートを作るので、カーリング体験は夕方から始まります。この施設では、ヘルメットやカーリングブラシ、靴底に取り付けるスリップオンスライダーなどの用品を無料で貸し出すだけでなく、参加者たちにコーチングをしてくださる方もいらっしゃるのので、初心者にも参加のハードルが低いと思いました。

この日はルールをはじめ、「ハリー」、「ウォー」など、選手たちの掛け声の意味や各ポジションの役割、戦略などを教えてもらった後、チームを分けて老若男女みんなでミニゲームをやりました。試合の時は、ハウス(標的)の外にはじき出す相手チームのストーン的位置や移動経路などを考えてストーンを投げる必要があるため、カーリングは氷上の「チェス」より「弾棋」に似ているのではと思いました。ストーンが軽快にぶつかるたびに歓声と嘆息が共存する状況がかなり興味深かったです。

今年は異色な種目にもチャレンジしてみました。2018平昌冬季オリンピックで話題になった「スケルトン」です。札幌には1972年に開催された札幌オリンピックの練習コースとして建てられたリージュ競技場があり、冬には市民もリージュやスケルトンを体験することができます。ここではもちろん本物の氷上のトラックを滑走します!



実際の試合で選手たちが平均1,300mのトラックを滑走することに対し、体験コースは250mと短かったですが、スケルトンは予想以上の勇気を必要とする種目であることを十分実感できました。うつ伏せ体制でそりに乗るので、地面と顔の距離がかなり近く、もしハンドルから手を離すと事故に繋がりがかねないので、滑走中には気を緩めることができませんでした。それに、滑り降りる間は速度もだんだん速くなるので、コーナーを曲がる頃は体がそりから投げ出されてしまいそうな気がしました。恐怖心を完全に克服することはできませんでしたが、「善は急げ」ということわざ通り、札幌市民大会スケルトン競技にも迷わず出場した私は運良く4位に入賞しました。



✓ 赤れんが通信
バックナンバーは
こちら



✓ 北海道庁
国際課
FACEBOOK



✓ 編集者・発行先 総合政策部 国際局 国際課
北海道札幌市中央区北3条西6丁目
TEL : +81-11-231-4111 FAX : +81-11-232-4303